

第1回 小田川付替事業  
環境影響評価技術検討委員会資料

小田川付替事業の環境影響評価について

平成23年8月31日

国土交通省  
中国地方整備局 岡山河川事務所

# 1. 小田川付替事業の高梁川水系河川整備計画での位置付け

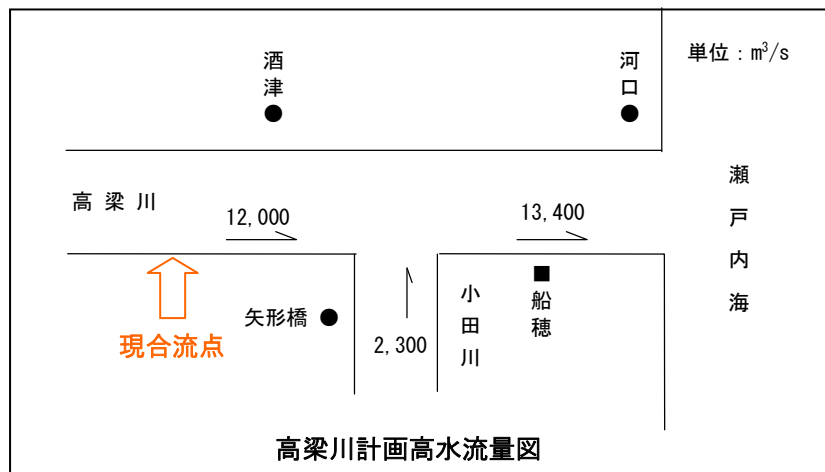
◆河川法第16条の二に基づき策定した「高梁川水系河川整備計画」(平成22年10月14日策定)

長期的な治水目標である「高梁川水系河川整備基本方針」に定めた目標を達成するためには、多大な時間を要するため、一連区間で整備効果が発現するような段階的な整備により、洪水等による災害の発生防止又は軽減を図る。

「高梁川水系河川整備計画」に定めた河川整備の実施後(概ね30年程度)には、流域住民の記憶に残る戦後最も大きな被害を与えた昭和47年7月洪水、平成16年台風16号高潮が再び発生しても、洪水被害が防止又は軽減される。

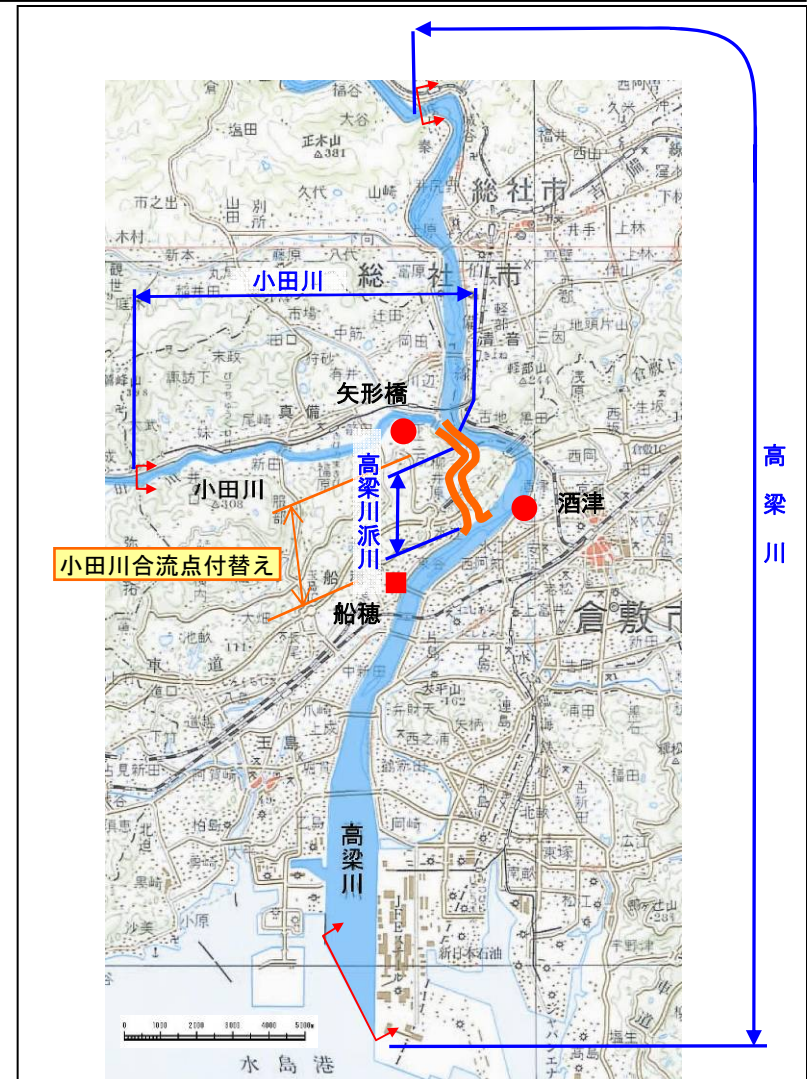
## 平成19年 8月 高梁川水系河川整備基本方針策定

◆ 小田川合流点を下流へ付替えて、高梁川の背水影響による内水被害の軽減を図る。



## 平成22年10月 高梁川水系河川整備計画策定

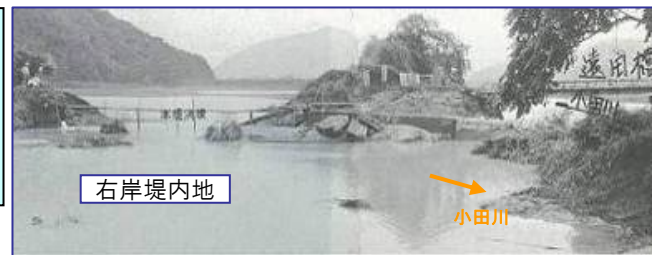
◆ 流域内で人口、資産が集中する倉敷市街地区間に位置する高梁川酒津地先、及び過去幾多の甚大な被害等が生じている小田川合流点付近の洪水時の水位低下を図る抜本的な対策として、小田川の合流点付替えを実施。



## 2. 小田川の内水氾濫と課題に対する解決策

### 内水氾濫を生じやすい地形

- 洪水時に高梁川の合流点水位が高いことから、小田川の水位が高くなる特性（背水影響）を持っている。また、小田川の河床勾配は、高梁川に比べても緩く、水位が高くなる影響が広範囲に及ぶ。
- 小田川の洪水時の水位を低下させ、被害を軽減させる抜本的な対策が地域から望まれている。



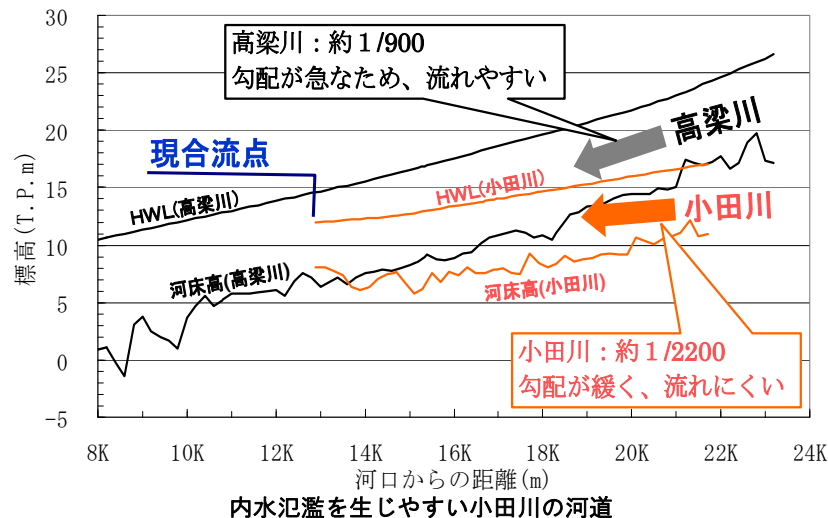
小田川の堤防決壊による浸水状況（昭和47年7月洪水）  
位置：倉敷市真備町遠田地区  
出典：昭和47年豪雨災害誌



小田川の内水氾濫はん濫状況（昭和51年9月洪水）  
位置：倉敷市真備町川辺

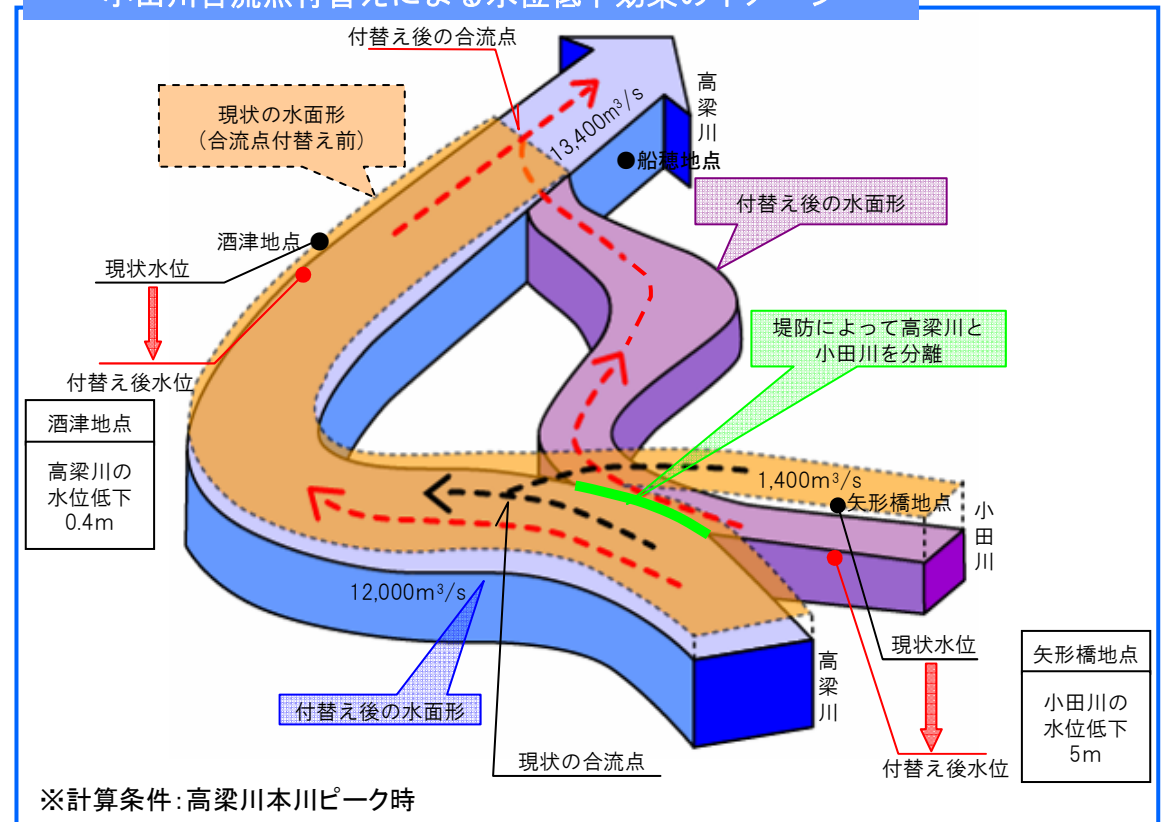


主要洪水の浸水区域図 (S47.7、S51.9)



内水氾濫を生じやすい小田川の河道

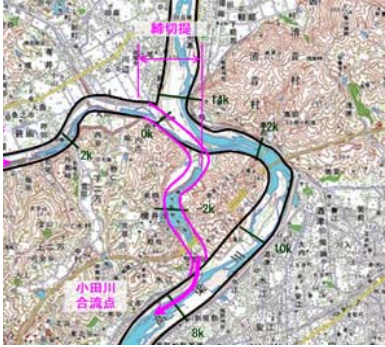
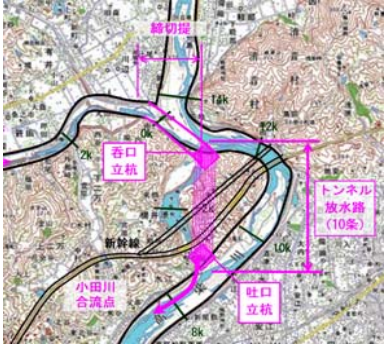
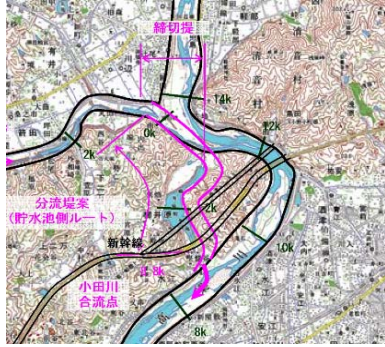
### 小田川合流点付替えによる水位低下効果のイメージ



# 3. 整備計画策定時の複数案比較評価

第3回明日の高梁川を語る会(H21.10.16)  
資料2「小田川合流点付け替えについて」より抜粋

◆ 各項目を評価した結果を踏まえ、合流点を下流に付替える比較案のうち、貯水池活用案が優位と判断した

評価項目	複数案			
	貯水池を活用する案	貯水池を活用しない案(トンネルバイパス案)	貯水池を活用しない案(分流堤案)	
概念図(平面イメージ)				
案の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の柳井原貯水池を活用して、小田川合流点を下流に付け替える案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下トンネルで小田川を下流に付け替える案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貯水池と小田川の間に分流堤を設け、笠井堰下流まで、小田川を延伸する案</li> </ul>	
社会性	家屋・事業所・農地への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>家屋：1戸、3事業所</li> <li>農地：26ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家屋：1戸、3事業所</li> <li>農地：12ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家屋：1戸、4事業所</li> <li>農地：7ha</li> </ul>
	事業実施の影響(周辺への影響)	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川区域内の工事であり、残土も貯水池内で処理できるため、影響範囲は狭い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネルを掘削した土砂の処理が必要になり、処分地までの運搬経路まで含めた影響範囲が広がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量の土砂を処分する必要があり、処分地までの運搬経路等を考えると、影響範囲が3案中最も広がる可能性がある</li> <li>新幹線橋梁、山陽自動車道橋梁の架け替えが必要となり、社会的影響が大きいと判断</li> </ul>
	笠井堰取水への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流に新規取水施設を設け取水形態を変更することにより影響なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常時は現合流点から樋門(新規)により分水するため、現状と変わらないので、影響なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流に新規取水施設を設け取水形態を変更することにより影響なし</li> </ul>
	貯水池取水への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水に影響が生じる場合は代替措置が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水に影響が生じる場合は代替措置が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水に影響が生じる場合は代替措置が必要</li> </ul>
経済性	コスト※1(億円)	250	6,500	2,700
環境	環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>改変面積は、96ha</li> <li>メダカやアサザなどの重要種の生息・生育環境が改変を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改変面積は、45ha(付替部、呑口、吐口)</li> <li>ナゴヤサナエやキイロヤマトンボ、タコノアシなどの重要種の生息・生育環境が改変を受ける</li> <li>アユの産卵場が1箇所直接改変される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改変面積は、94ha</li> <li>ミゾコウジュやタコノアシ、メダカなどの重要種の生息・生育環境が改変を受ける</li> </ul>
	景観への影響(事業実施後の景観)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要な眺望点からの景観に大きな影響はない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坑口の形状によっては、景観資源である八幡山に改変がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観資源である八幡山が大きく改変される(法長：最大100m以上)</li> </ul>
維持管理	維持管理特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の河道管理と同等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネル内の排水、排土等維持管理が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長大法面の維持管理が必要</li> </ul>
総合評価		○		

※1：新幹線橋梁、山陽自動車道橋梁の架け替え費用は含まない工事費

3   : 相対的に良案と評価される事項

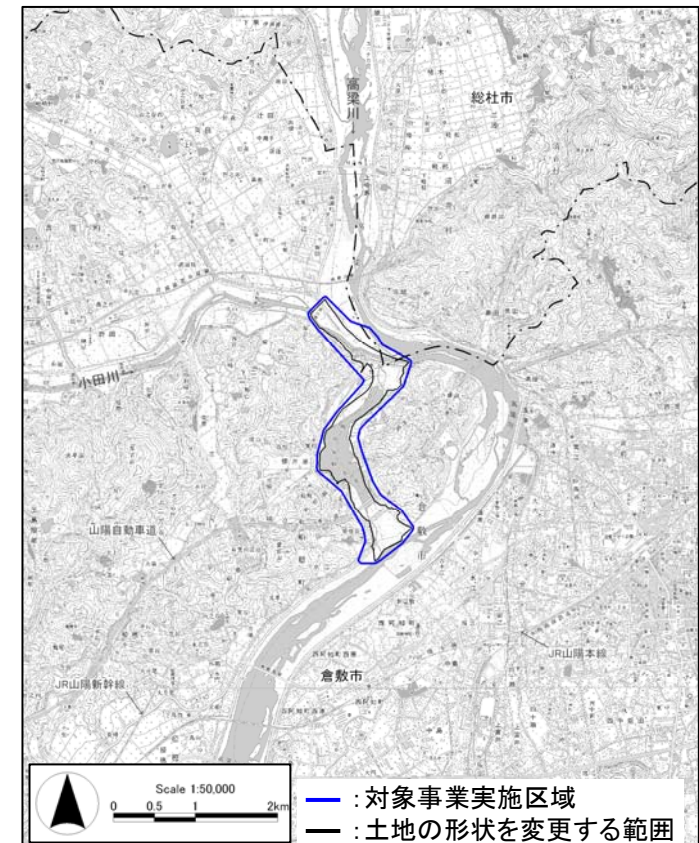
## 4. 小田川付替事業の環境影響評価法の適用について

「環境影響評価法」(第二条)に基づく対象事業の要件

	第一種事業	第二種事業
ダム、堰	湛水面積100ha以上	湛水面積75ha以上100ha未満
放水路、湖沼開発	土地改変面積100ha以上	土地改変面積75ha以上100ha未満
河川改修	対象事業ではない	対象事業ではない

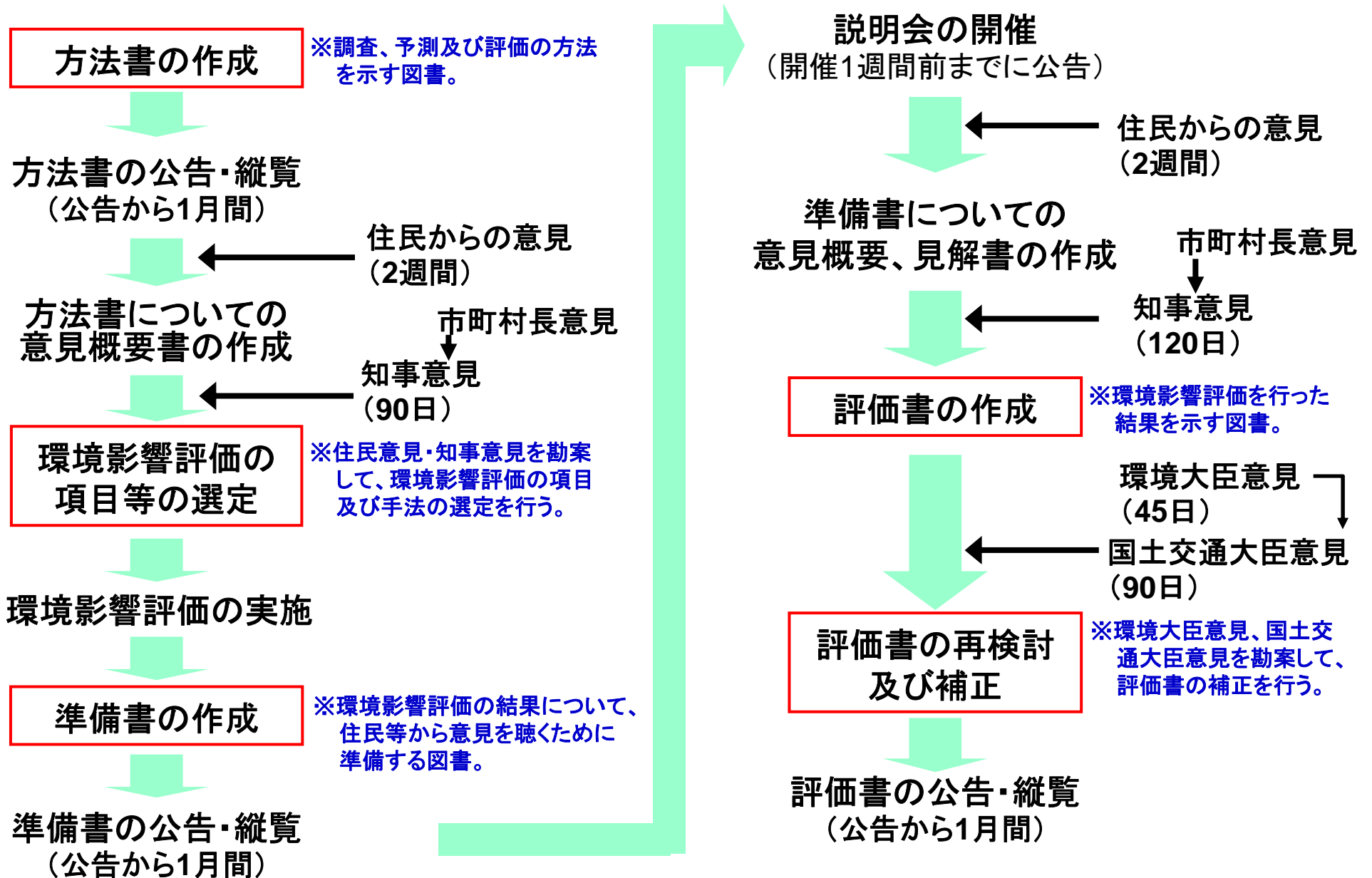


小田川付替事業の改変面積: 約107ha  
→ 第一種事業に該当



対象事業実施区域

# 5. 環境影響評価手続きの流れ

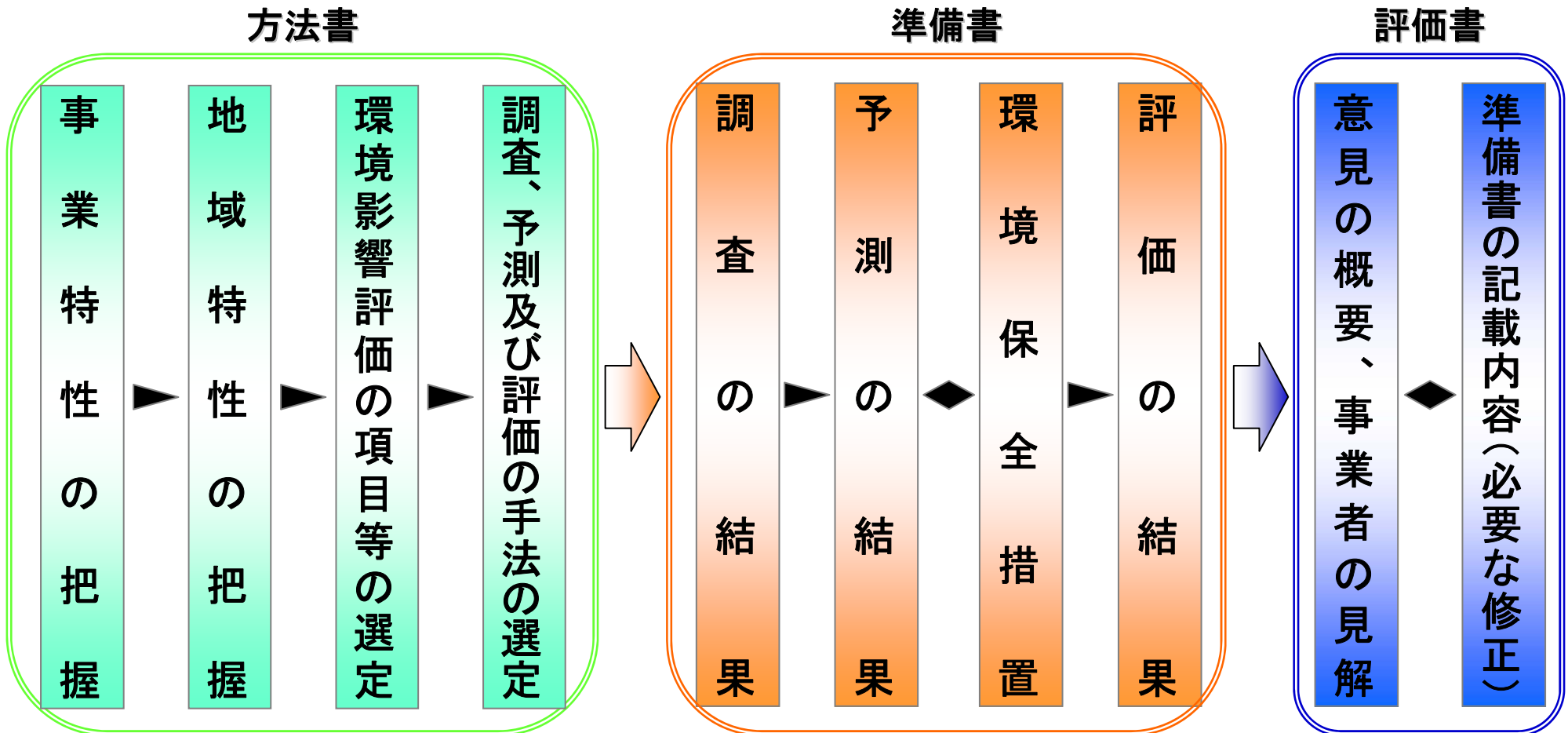


※赤四角囲みは技術検討委員会から助言をいただく時期

## 6-1 小田川付替事業 環境影響評価方法書(案)の内容及び位置付け

○「方法書」とは、環境影響評価において、どのような項目について、どのような方法で調査、予測及び評価を行うか、という計画を示した図書。

1. 事業者の氏名及び住所
2. 対象事業の目的及び内容
3. 対象事業が実施されるべき区域及びその周辺の概況
4. 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法



## 6-2 方法書作成の流れ

